

商工会青年部
行政懇談会
第8号



発行責任者 佐藤 栄一
発行 三春町商工会青年部
総務委員会
委員長 村上 瑞夫
発行日 平成3年3月1日

期待してます。若い力!

佐藤 栄一

今日も催促の電話が、「部長、礎の原稿……」困った。原稿用紙六枚である。気が多いのでテーマが絞れない。又、絞ったところで、気のきいた文章など書けるはずがない……。

部長となつて困った事がいくつか有りますが、それを順番に言う、第一が人前での挨拶。

これには、二つの区分けがあつて、ひとつが会合で述べる簡単なことば。いわゆる部長挨拶です。

もうひとつが、人に会つた時の儀礼的な動作や言葉で、町主催の多くの会合などで、青年部の代表として会議に出席した時でありま

す。第二が、人の顔を覚えるのが苦手な事。即ち、人に挨拶された時に、相手が誰だかわからなくて、返事が出来ず相手を不快にさせてしまふからです。

次は、カラオケ。

道草でずいぶん金を費つたが、一向に上手くならない。自分で下手だと思つているから唄いたくない。唄えと強制されて唄うが、下手なのと思つて唄うのは、気の重いものです。だから、私が唄っている時は、自分を忘れるほど酔っている時なのです。

次が県の青年部連合会の集まり。

(これは困るといふより、苦痛かな。)

集まりそのものは構わないが、こちらにも都合がある。日程が空いていれば良いが、よくダブル。

欠席しようと思うが、県の補助金の用途が決まっているので、予算消化のために出席する。出席すると必ず講演会がある。たまに無能な講師がいて、自分の無知と偏見を金をもらつて、大威張りして話す。

聞いていると腹が立つ。ついでに県の補助金に腹が立つ。おまけに選んだ事務局に腹を立てる。

講演会が終わると懇親会になる。

この懇親会では、先程の講師をお偉いさん達が持ち上げる。これを見ていると純心なる私は、またまた講師に腹を立て、偉い人は嘘つきだと思ひ、県の役人に腹を立て、最後に出席した自分に腹を立てる。

あまり腹を立てたので疲れがドツト出る。今日は腹を立てるのに忙しかつたな。しかし、お偉いさんは本気で、講師の話信じているのだからか。それとも、信じていないのに信じている風に嘘をついているのだからか。バカでは偉く

なれないんだし、そのためには嘘も必要だろうな。まっ、俺には関係の無い世界だ。などと考えている内に眠つてしまふ。本当に疲れ

る訳だ。

まだまだ困る事は沢山あります。が、最も困るのが文章を書くことだ。「礎」の原稿依頼があつた時に「役員会で礎を廃刊にするよう決めれば良かったな……」などと、ばかな事を考えながら書いています。

文章とか挨拶とか言うものは、自分の考えている事を要約し、相手に自分の考えを伝える手段のひとつだろうが、自分にはその能力が欠けているようだ。今さら悩んでも仕方が無いな。

話は変わりますが、もう間もなく、私も青年部を定年になります。自分が入部した時には四十歳近い人が青年部?と思つた覚えがあり、自分も既にその年齢であり

ます。

今の青年部の若い人達も、同じ思いであろう。「あんなおじさん、青年部なの?」本当に若さというものは、今から思えば、うらやましいものなのです。そして、青年部という組織が活発に動けるのも、この「若さ」という力があるからだと思います。

いろいろな会合の中で、私は青年部の役員会が一番好きです。人数が少ないという理由も有りませんが、自分の意見を各自がはっきり述べるからです。

これは、長い間変わっていません。元気が良すぎて、時々脱線しますが、そんな事は構わないのです。自分の考えを話し、自分の意見を出し合つて活動してゆく事が、

プライバシー保護

フィーリング・カップル 7対7 イン大町

西川きよしチーム

| | | | | | | |
|-----------------------|--------------------|---------------|---------------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------------------------|
| これ以上 太らないで ほしい？ | 私の 足長が おじさん。 | 歯が1本 ありません | つかれと ストレスを ためないようにね | 大分県から 三春に 来ました。 | 新米ですので よろしく お願いします。 | 5月に家族が 増える予定です。 たのしみに しています。 |
|-----------------------|--------------------|---------------|---------------------------|-----------------------|---------------------------|---------------------------------------|

プライバシー保護

(上の奥さんに、最も似合うと思われるダンナを下から選んで下さい。)

横山やすしチーム

| | | | | | | |
|---|--|--|--|---|--|--|
|  |  |  |  |  |  |  |
| 只今 減量中!! | つかれと ストレスで コシが痛い。 | もっと スマートに なってほしい？ | 今のキミで 十分だぞい!! | いつまでも フレッシュな 気持で いたいですね | 結婚して7年目 です。 まだまだ これからです。 | 今年こそ グワンバリ ます。 |

日本の 「食生活」について 白石吉正の妻

日本にはすばらしい四季があります。恵まれた自然環境があります。環境汚染が問題になっている今頃ですが、美しい自然が破壊されて近代的な建物が立ち、生活は便利になった面もありますが、昔、子供の頃、学校帰りに友達と、道草して遊んだ山、川、田んぼが今は道路整備されてしまっって、昔の面影もなくなってしまい、残念に思います。

スーパーへ行っても、その季節にしか取れなかった野菜が、温室栽培やバイオ技術で、いつでも豊富に店頭に並べてあります。ファーストフードや、インスタント食品が、所狭しと並べられ、パック詰めされて、日本の食生活も時代の流れに伴い合理化され、日本の四季の季節商品がなくなっってしまいました。働く女性が増え、便利な商品も増えて、家事労働の負担も軽くなり、生活スタイルが変わっってきた今、改めて日本の食生活の在り方を見直さなくてはいけないと思います。

私達の一番身近にあり、なおかつ毎日口にしてる食品の中にも、体に有害な添加物が配合してあります。添加物の代表群として、合成着色料、保存料、化学調味料などです。これらの添加物が、体内に蓄積されて有害物質となり、そ

プライバシー保護

れらが恐ろしい発ガン性物質になってしまします。

又、現代病として、子供達の好き嫌いによる偏食、カルシウム不足、糖分の摂り過ぎや、ファーストフードなどの食品が普及されている今、このような毎日の生活の中で、子供達の健康な体が侵されています。

これらの事を把握して、少しずつ生活改善をしないではいけません。例えば、みそ汁に煮干しを入れるとか、毎朝の牛乳の習慣、間食をしない、適度な運動をするなど。野菜も旬の物を摂るように心がけて、輸入品に頼らず国内製品を、なおかつ安心な食品を摂りましょう。私も一消費者として安心な食生活を、これからの子供達へ受け継いで行かなければいけないと思います。

大手スーパーの進出に

小売商店は

どう立ち向かったか

日本実業出版引用

・プラス感情で成功した実例
私は、かなりプラス感情の男である。

こういうプラス感情・マイナス感情が、日常生活・事業経営・商売という面で、どういう影響を与えてくれるか二、三の実例をあげて考えてみよう。

ある小売店の実例から

—スーパーを恨みつつ転業していった食料品店

親の代から食料品店を営んでいるお店があった。昔は力があつたから、商店街でも顔役である。その土地には、馴染みの客もたくさんいる。そういう店の近くに、近代的な大型スーパーがやってきた。昭和四十年代によくみられた図式である。

もちろん、その店だけでなく商店街全体が大きな影響を受けた。仮にその店主をAさんとしておこう。Aさんは、あのスーパーのやろうとカリカリし、お客をゴツソリとられたのはスーパーのせいだ、もつと元をただせば、スーパーに土地を売ったあの呉服屋のオヤジが悪いのだ、と目を三角にした。顔つきも険しくなり、むかしのお馴染みさんがスーパーから出てくると、そっぽを向いて挨拶もしない。

スーパーの出現でお客がこっそり減ったうえに、A店主のこういう態度が店員にも伝わり、さらにお客は一人減り、二人減りしていった。当然のこととして売上げも大きく減り、すべてはスーパーのためだ、と自分の店を改善する気持ももたなかった。日ならずして、A食料品店が転業をよぎなくされたのはいうまでもない。

—スーパーに学んで業績アップしたB食料品店

A食料品店と似たような規模のお店が近くにあった。やはり同じ食料品店である。

B食料品店としておこう。

しかも裏通りにあるので、表通りのA店より事情は悪かった。が、Bさんはいつもニコニコしているプラス感情の持主だった。

もの見事に客を持っていかれてしまった。ある程度は覚悟していたものの、それにしても敵ながらあつぱれである。

いったいスーパーのどこにそんな魅力があるのだろうか。果たして値段だけの問題なのだろうか、とBさんはある日、敵情視察にスーパーに入ってみた。

店内は明るく清潔で、品物も豊富である。もちろん、雰囲気も良い。店内には軽い食事のできるスタンドやスナックもあって、レジャー・ショッピングの体裁を整えている。これじゃかなうわけがない、と感心したが、ふと我にかえて自分の店を振り返ると、あんな小汚い店でも裏通りにあるのに、まだスーパー出店前の、最盛時の半分もの客が来てくれている、ということに気がついた。

これこそほんとうのお客さんだ、このお客さんたちを大切にしなければいけないと店員の再教育をはじめた。今までも、道で顔馴染みのお客様に会うと、挨拶をしていたが、それからは特に、スーパーの大きな袋をかかえている奥さんに顔を合わせても、元気に挨拶をさせるようにした。

品揃えも、スーパーにない特殊なものや、スーパーで扱えないもの

のを置き、バックでまとまった数量を押しつけず、一個売り、計り売りにも気持よく応じた。

今来て下さるお客さんこそほんとうのお客さんだと、感謝の心を込めて一生懸命応接した結果、一時は半分まで激減した顧客も一人戻り二人戻りして、今ではスーパー帰りの新しい客も立ち寄るようになり、スーパー進出前よりよくなった。

「—悪くなる原因をつくっているのは自分自身だ」

大手スーパー進出という事実は変わらないのに、A店とB店の変化は、店主の心の持ち方にあるのである。

人の振り見てわが振り直せ—その渦中にあると、案外自分身のことには気がつかず、ものごとを悪い方へ、悪い方へと引きずっている。

こうして二つの例をプラスとマイナス並べてみると、お店の経営がうまくいかなかった原因がどこにあるかがわかるだろう。

今あなたが、何かのことで思わしくない、うまくことが運ばない、悪い方へ悪い方へと向かっている、とすれば、その原因をつくっているのは、他人ではなく意外と自分自身であるかもしれない。どうせ事実が変わらないのだったら、自分自身を変えてみたら、もしかしたら、よくならなくても、もともとではないか。

すべては俺に原因があるから、

プライバシー保護

悪くなるぞ、悪くなるぞ、と楽しみながら見つめ、ついに駄目になったら、ああ、やっぱり俺は先見の明があったと威張ってみせる。そういうユーモアをもつ心のゆとりが、今のあなたに必要なのではないか。

お魚とのかかわり

中町支部 渡辺正一

私達の身の回りには、魚を料理して食するばかりではなく、古来よりもっと身近に係わってきたものが多くありました。それらをほんの少しだけ書かせていただきます。

まず、ことわざとして今も残る

ものを紹介しますと、

「鰐腹食う」(たらふくくう)

マダラは寒流の深い海に住み、大きな口をしていて腹部は布袋腹のようにふくらんで、食べたものはいくらでも胃の腑におしこめられるようにできていて、大食することからこのことばが使われています。

「アンコウの待ち食い」

なまけ者の代名詞のように使われている言葉です。頭の先にある細長いアンテナ状に変形した背ビレの触糸を動かして、魚を口中へおびきよせる魔術を心得ていて、動かなくても、大きな口へ魚を姿のまま胃袋の中へおさめてしまいます。

「白魚のような指」

「月もおぼろに白魚の」

シラウオはあれで立派な大人です。半透明の体に眼玉の黒点が二つあるのが特徴で、いかにもシラウオを連想するような言葉です。シラウオとよく間違うシラスは、イワシの稚魚で「おどり食い」としてよく食べられるのはシラウオではなく、ハゼ科の稚魚です。

次に祝いの時によく用いられる魚を

幼魚から成長するまでに、呼び名が変わるので出世魚といわれているのがぶりはです。

ぶりは回遊魚で、晩秋から春にかけて、北洋から近海へ群をなして移動して、産卵がすむと、ふたび北へもどっていきます。呼び

名が二十センチ位までのがワニシ、

四十センチ前後をイナダ、六十センチ程のをワラサ、九十センチ以上のをぶりと呼びます。地方によって呼び名も変わっていて、大阪ではイナダのことをハマチと呼んでいますが。現在では養殖ものをすべてハマチと呼んでいます。

ぶりは寒ぶりといわれるぐらい、寒のぶりはうまく北陸の方では、嫁いだ娘が年の暮れに実家へ送る習慣があります。

その他に祝ものとしては、イセエビ

その姿が具足をつけた武士のように立派なもので、その名も同じお伊勢様の信仰から正月の飾りとしてなくてはならないものと考えられていました。そして、ハマグリ、二枚貝の固くしまった殻は、みずから開くという意味で、女性の貞操をあらわし三月の節句には特に用いられ、夫婦和合の意味もこめられています。又、数の子(東北の呼び名角いわしの子でカドの子)も祝いの膳によく乗るものの一つで、子宝や子たくさんを意味しています。

魚やそれらに類したもので、旬や性質を表したこともたくさんあります。

フグのテッポウ(よくあたる)カニを食ってもガニ食うな(ガニの部分の寄生虫で食あたりをおこしやすい)月夜のカニ(カニの脱皮の時期でまずい)

秋サバ嫁に食わずな(一番うまい時期)

サバの生き腐れ(姿だけでは鮮度が判断できない)

魚はその土地土地で呼び名が変わったり、食文化の違いが多くみられます。

旅先の宿でそれらを発見、ふれてみるのも楽しいものです。皆さんも少し旅の楽しみ方を変えてみてはいかがですか。

「挨拶」

本田正弘

私は、人間は自分と別の個性を持った人間との出会いによって成長すると考える。しかし、人と人の出会いは、物体同志の衝突とは違う。人の出会いは、人間がお互いに心を開いて交わる事を認め合う事であると考えるのである。「挨拶」は、人が人に対して心を開いているという表現の最たるものである。形式であろうとなかろうと、挨拶のない所に人間の交わりはなく、交わりのない所に人間は存在価値すらなくなるのである。

この様な視点から考えてみる時、私は人間味あふれる三春町、三春町民、これらが素敵に思えてくるのである。地方でも都市化が進行し、人間関係の希薄さが囁かれる現在、私が以上の事をふまえた上で、とても感心させられるのは、

御木沢小学校の生徒のすがすがしく、尚かつ礼儀正しい挨拶である。

「おはようございます。」「さようなら。」「こんにちわ。」「子供らしく元気があり、受け手の気持ちをおなごませる。商売の原点は、こんな所にある様な気がするのである。話しは変わるが、先日、三春町公民館での景観ウォッチング報告会を見学しに行った。私が最も深く思ったのは、誰かがおっしゃっていた「街づくりは、人づくりから。」というフレーズである。私は、三春町においては、青年部の方々ははじめ、野球のヤングライオンズ、消防団、荒獅子保存会等の方々のお世話になっている。そこには、同年代の友人達から得る事のできない「勉強の場」が設けられている。今の若者は、会社関係、友人達の関係以外の組織には、なかなか自分から参加できない。例えば、お祭り、消防などの勧誘においても、自分から参加しようとはしない。親は、こんな子供のいいなりになってはいけないと思うのである。自分が一生暮らすであろう字単位の組織すら参加できないとは情けない。自分の子供の将来を考えたらいろいろな個性がぶつかる組織に参加させるべきである。この辺から底上げしないと本場の意味での人づくりは、実現しないと

思うのである。実は、私も草野球以外は、積極的に参加できなかった。だが幸運にも、草野球の諸先輩方は、消防、商工会青年部、荒

獅子保存会の先輩でもあったのである。今の若者を奮い立たせるには、些細なきっかけが欲しい。そのきっかけになるのが、「挨拶」ではないかと思うのである。今の若者は、諸先輩から本当の意味での挨拶を受けているのに気付いていないのである。

私を含め利己主義で損得勘定が得意な若者は、人と人が触れ合う「挨拶」を素直に熟考する必要があると思う。この辺をうまく改革しているのが、現在の商工会青年部ではないかと思う。尊敬できる方々がたくさんおられるし、その行動力には目を見張るものがある。人生経験豊富な先輩方と我々では、当然雲泥の差がある。だからこそ我々は真の意味での「挨拶」ができる様にならねばならない。自営業者と勤めの者関係なく、若者が誰とでも「挨拶」できる様になった時、三春町は、今よりもう一つ活気ある町になるであろう。

三十五時間

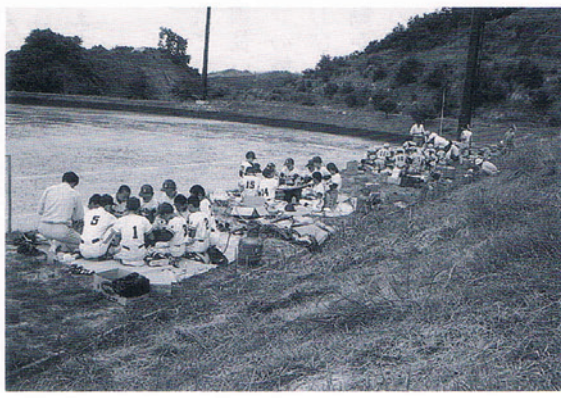
ソフトボールの回想

鈴木正一

去る平成二年八月四日早朝より五日の夕刻迄、史上希にみる二十四時間ならぬ三十五時間という気の遠くなる様なソフトボール大会が我が三春町商工会青年部全員が一致団結の力を持って実施されたが、初めてにして上出来と自負している所である。この企画は大会

のおよそ三ヶ月前、役員会の席上、今年度は大それた事を何かせねばという事で、多少アルコールの入っていた役員諸士のそれも野球好きの面々の提案である二十四時間ソ

フトボールに、三春町町村合併三十五周年記念大会という案も合わせり決定したものであった。私は当初二十四時間でも参加チームの募集、組み合わせ調整、青年部員の動員その役割等、大変なものだろうと思うに、それを十一時間上回る三十五時間などはと思うことが度々であった。しかも私が仕事柄最も忙しい八月に実施とは役員は何を考えているのかまったく！



私もその一人ではあるが。しかし、考えてみると忙しいと言っている人は結構時間を作るといふか、上手く使うといふか、何もなければ時間でいふか、予定外

に入ってきた事に対して、時間を割いてそれなりに処理できるよである。最近時間を有効に使っているなアと思ひ込んでいるのかもしれないが。

話はソフトボールに戻るが、三十五時間ソフトボール大会の参加チーム募集は、商工会を窓口として広報、チラシ等で呼び掛けたが単純計算にして一試合一時間とし、七十チームが必要ということである。私も実行委員長という立場上、いくらでも参加チームをと思ひ、自分の属している種々の会合等に出席し、参加要請したものである。この要請に対して反応はよく「是非チームを作って参加しましょう。実行して下さい。」と言われるので、当初の参加チームは足りるだろうかとこの心配が、打ち合わせを重ねる度にも、結構三十五時間でもいけるかなという気になってくるのである。それにしても当日の大会には七十四チーム延べ数百人の老若男女、小学生からおじさんおばさんまでの、中広い世代でソフトボールもさることながら、試合後の肉、野菜無料の焼肉大会も十分楽しんでたようである。

そして、この大会の裏方青年部員ほとんどが準備段階から後片付けまで、ある部員は数時間毎交替で、またある部員と三十五時間中を通して、当日二日間に亘る大会運営に当たっているのを見て痛く感動した次第である。この大仕事を成し遂げた青年部の力が今後の三

春町の活性化に大いに寄与し、春は桜まつり、夏は盆踊り、秋は祭り、産業まつり等々、一つ一つのイベントの時は賑わうのだが、全体とすると静かなこの町を活気あふれる町に作り上げていく事が出来るかどうかこれからの活動に注目！

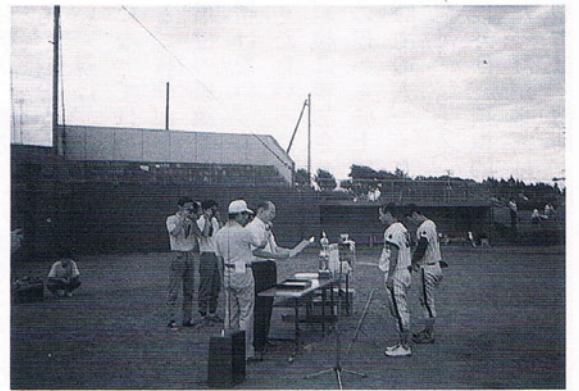
ともかく、特別事業としての三十五時間ソフトボール大会が終わったのである。青年部役員になって二年目にして行った「大」事業。最後に、この大会を支えた商工会事務局、青年部員、慣れない手つきで白菜、玉ねぎ、ピーマンを洗いそして刻む男共の姿を見るに見かねてというより無理やり手伝わされた青年部役員の奥様方、そしてソフトボール好きの、焼肉目当の参加者の皆さんに心より感謝致します。

県大会初の決勝進出

小 笛 宏

今年も商工会野球の熱い夏がやってきた。今年には昨年に引き続き二年連続県大会会場、そして県大会での一勝が大きな目標である。昨年と同じメンバーではあるが、それぞれが昨年の借りを返そうと練習にも一段と熱が入る。六月からは早朝練習そしてナイターでの練習を行ってきた。

第二十九回田村郡大会は、七月九日三春町営グラウンドで行われた。三春チームは一回戦シードさ



れ準決勝からの出場である。対戦相手は、都路戦に打ち勝った小野町である。試合は投手戦となり、我がチームは、相手投手にノーヒット。エース赤羽も要所をおさえ得点を与えない。結局最終回相手チームの失策を誘ってノーヒットながらも劇的なサヨナラ勝ちをおさめた。

決勝戦では、滝根町と対戦、得点機にタイムリーが出ず苦しい試合となったが三対二で滝根町を振り切り、郡大会一連覇を果たした。これで県中優勝旗の返還は、全員で返すことができた。

第二十九回商工会野球県中大会は八月三日玉川村の村営グラウンドで開かれた。この日は強い日差しが照りつけ、うだるような厚さの中で試合が行われた。三春チームはくじ運よく準決勝からの出場

初戦の相手は、富久山町と対戦し勝ち進んできた強豪石川町商工会である。試合は味方の失策などで三対一と四回までリードされ形勢は不利である。チャンスは、五回の表一回だけであった。二死ながらも、ヒット、四球などで塁は埋まっている。打席にはチャンスに強い木下、得意の右ねらいでライオン上に打球を落としボールはファウルグラウンドに転々ところがり走者一掃の三塁打である。一気に四対三と逆転に成功。守つては五、六、七回とバックスがそして投手赤羽が一点差を守り抜き決勝戦へと進んだ。決勝戦の相手は、二試合を勝ち抜いてきた、強打線を誇る安積町商工会である。初回から相手投手を打ち込み有利な試合を展開とする。投手木下は、得意のカーブで相手打者を討ち取っていく。我がチームは、増子、赤羽とホームランを打ち安積町を七対三と圧倒し、県中大会一連覇である。昨年に続き優勝旗を授与され、県大会出場権を得たのである。

第二十四回商工会親善野球大会は、八月二十三日富岡球場、大熊球場を会場に開かれた。大会には県内六ブロック、百四チームが参加した地区予選を勝ち抜いた八チームで行われる。そして九月に開かれる札幌での東北、北海道大会をめざすのである。

この日も朝からうだるような暑さである。一回戦は、大熊球場で行われ、対戦相手は、いわき地区

代表の川前町商工会である。初回から相手投手を打ち込み点を取っていく。打線は好調。結局六回コールドで十対〇と快勝である。これで目標とする県大会での一勝を達成した。

引き続き準決勝である。暑さも最高潮で、選手たちはバテ気味。対戦相手は西会津町商工会である。初回から点を取り三春ベースで始まった。投手橋元は持ち前の粘り強さで相手投手を押しさえる。しかし四回につかまり四―二と逆転される。六回に相手の意表つくくダブルスチールなどで一気に四点を奪い八対五と試合を決めた。

これでどうとう考えてもみななかった決勝進出である。しかし選手たちは、暑さで疲労も極限に達している。あとは、気力しかないのである。熊田主将が気合を入れ決勝へのぞんだ。

決勝戦は場所を移して富岡球場で行われた。相手は会津高田町商工会である。三春の先発投手は一番若い本田。投手は初めてで心配ではあったが、元気のいい本田しかないないのである。

初回にこそ一点は取られるが、三回表橋元のタイムリーで同点に追いつく。このあと両投手が三塁を踏ませない好投で緊迫した戦いとなる。とうとう最終回高田は、ヒット、野選などで二死一、二塁、次の打者は三塁ゴロである。三塁手が一塁への悪送球で二塁走者が一気にホームをつきサヨナラで熱

闘の幕を閉じた。高田は歓喜につつまれるが、三春町側はただぼろぜんとするだけだった。三度目の県大会出場での初回の決勝進出。しかも互角の戦いができ選手たちはよくやってくれたと思う。そして選手だけではなくベンチで声を出して励ましてくれた佐藤部長はじめ、みんなには本当に感謝の気持ちでいっぱいである。また大勢の応援をいただきありがたいと思いました。本当に楽しい野球をすることができました。これにおこることなくまた次の目標ができました。目標達成に選手一丸となって頑張っていきたいと思います。

このでどうとう考えてもみななかった決勝進出である。しかし選手たちは、暑さで疲労も極限に達している。あとは、気力しかないのである。熊田主将が気合を入れ決勝へのぞんだ。

ミス愛姫 コンテストによせて

渡辺正一

本部の役員へこの話が持ち込まれたときは、我々は唯一人として賛成の意向をあらわす者はいませんでした。また、我々青年部員は労働力だけとしか考えられていないのか、と思ったからです。しかし、今回については、全て青年部の企画にまかせ、金は出すが口は出さないという事なので、それでは責任重大だ、日頃口ばかりで何も出来ないじゃないかとやわれない様に、我々で公正かつ楽しいコンテストを企画しようということになりました。

では、まず何が公正なのか？
一次投票の方法は決まっています

たので、二次投票と特別審査委員の投票との加算でミス愛姫を選ぶ方法をとることにしました。そして審査委員も従来とは違って、町外の方へお願いすることにしました。



次に会場ですが、高級なイメージを与えてくれる椿山荘さんへお願いした訳です（親会理事さんのはからいがありました）。なんととっても豪華な会場と演出は見入る人達を楽しめます。

細かな所への気づきも大変でした。専門の司会者への依頼、アトラクションの手配、部員の分担。すべてが新しいイメージで運ばれていきました。

部員の仕事も受付から始まり、会場係、テーブル係、候補者係、そして駐車場係と部員総出で全てに部員自らが手がけ、特に候補者係には独自の部員があたり、候補

者のそばに控え、リラックスできるよにと気付きました。コンテストの始まりから終わりまでが時間ごとに区切られていてスケジュール通りに進行できるよに何度も入念な打ち合わせが行われました。

集計にはコンピューターも導入され、会場の二百名の一般審査員と特別審査員の投票の集計で、公正さとスピードアップに威力を発揮し活躍しました。

コンテストの会場へ来られた方々は、満足されたと思います。会場の雰囲気、豪華な料理、部員の接待そして厳正な審査です。我々が考えていた通りのイメージでコンテストを終了することができました。でもドラマもありました。投票の結果落ちた候補の家族が泣き出してしまうのです。そのテ



ル係の部員もどうすることもできずに気の毒そうに見ているだけのようでした。

支持する候補が選ばれ喜ぶ人、選ばれずに悲しむ人、人それぞれに違った思いがあったことが感じられました。

一つのイベントを一生懸命やり、成し遂げるといろいろなことが生まれます。部員同志の連帯感というものもその一つではないでしょうか。即ち一つのことを皆が協力してお互いをカバーしあうという、支部を越えての青年部の型ができ上がります。明日の事業を行う時、それが非常に大切になります。これから一生懸命に事にあたりましょう。

愛姫コンテスト に出場して...

佐藤やよい

私がコンテストに出場したのは、独身最後の記念に何か想い出を残したくて出た所が、ミス青年部を頂いて本人が一番びっくりしました。

私なんかが思いながらもシンガポール旅行を新婚旅行にしてしまい、私が一番ちゃっかりおいしい所を頂いてしまったのでは。

これまで商工会の方々と仕事をしたりしていろいろな事を知ったり楽しい思い出が出来、今から思えばコンテストに出た事を本当に良かったと思いました。

町村合併三十五周年記念 三春町産業祭について

佐久間 豊

部員の皆様には、一年で最も家族サービスに適した、あるいはレジャーに適した十一月という時期に、度重なる事業に協力いただきまして、誠にありがとうございます。

年々部員数が減少し、個人に掛かる負担は事業を実施する度毎に、重くなって来ています。今後事務局としても考えなければならぬ事だと痛感致しております。

さて、今回の産業まつりですが、そもその発端は青年部にある様です。即ち、今年で四回目を数えた一関地方産業まつりへの参加ですが、前年の反省会の時に、一人の部員が口をすべりました。

「自分達の小さい時には、小学校なんかで産業祭みたいなのがあり、楽しかったことが思い出にある。」
この言葉を、私からは時々悪魔に見えることもある、原商工観光係長が聞いて、ニタリと笑ったのでした。

反省会から約半年後、来ました原係長様から。

「町村合併三十五周年なので、三春でも産業祭を実施したい。青年部の皆さんにも協力をお願いします。」

この依頼後の役員会で、反省会の時に口をすべらした人が、どの

ような迫害を受けたかは、ご想像にまかせます。

この話があった後は、産業祭についての具体的な進展が無いので、青年部としては三十五時間ソフトボールというハチャメチャな事業へと驚進していった訳であります。天災は忘れたころにやってくるので、またまた、原係長さんがニコニコしながらやって来るのであります。

青年部としては、言いだしっぺという事もあり、無下に断る訳にもまいりません。

しかし、七月の郡野球大会から事業が続けばなし、という現状でもありますので、役員会では協力の有無は各支部の裁量にまかせると言う事に致しました。

その結果は、皆様の御承知の通りであります。私も事務局ということで、三日間会場に足を運びましたが、各支部毎の段取りの良さは、さすがイベント慣れした青年部（誰のせいとは言いません。）と感服いたしました。

この中で、私ただ一人、カルメ焼きに夢中になっておりました。誠に申し訳ございませんでした。（反省させるために、私に産業祭の記事をかけと、委員長は言ったのかな。）

一関地方産業

まつりに参加して

三春町商工観光係

原 毅

私が商工会の皆さんにお世話になり姉妹都市一関市の産業まつりに参加するようになって、早いもので三回を数えました。

おかげ様で一関産業まつりへの参加も年々定着して来ていることは一冊に商工会青年部の皆さんのおかけと感謝いたしております。

参加して毎回感じるのは一関市の皆さんの対応です。会場の一歩良い場所を提供してくださるうちに、市長さんのあいさつにも必ず「姉妹都市福島県三春町の皆さんがおいで下さっています。是非お立ち寄り下さい。」とのあいさつがあり、気のつかいようがかわがわります。

今では一関市のスタッフの皆さんともすっかり親しくなり、一年ぶりのごぶさたでした、また参りましたと、気軽にあいさつする仲間にもなりました。

商売のイロハも知らない私ですが、並べてある商品が一つ一つ売れていく喜び、そして一日の仕事を終えた後の酒を交えた懇談会も有意義なものであり、楽しみの一つでもあります。

商工ベースの産業まつりを契機として今後さらに交流が深まり、産業・教育・文化とあらゆる面での交流が図られればと思つと同時に、是非一関の皆さんに三春の行事に参加して欲しいとも感じます。現在町一丸となって進めている商店街活性化が一日も早く実現できるようにお互い頑張りたいため

最後にりましたが、ご自分の商売が忙しい中、三春の代表として一関地方産業まつりに参加して下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

「一関地方産業まつり」に参加して

内藤 巖子

「一関地方産業まつり」に三春町の代表のひとりとして参加させていただきました。

やっぱり、人に物を売るといふことは、売る側がその商品に対して理解をしなければむずかしいですね。特に買い手側がその商品に対しての知識が薄い場合は、例えば、三春名物三角油揚げ。

例えば、「あら、厚揚げ？」とお客さんが「あら、厚揚げ？」と聞きます。私が「いいえ、厚揚げとは違うんです。油揚げなんですよ。」と答えると「どう違うの？」と返ってくる。私自身、厚揚げと三角油揚げの違いを理解していません。だから、返事に困って説明不足。

それでも「ふーん」とか言って買っていったりはくれましたが、少し情けなかつたです。

あとひとつあるんですが、それは三五八。あるおばあさんが「三五八って三対五対八だから三五八っていうんでしょ？何が三で何が五？」って聞くんですよ。よく分からないから「塩とあとは……。」



と言葉を濁していると「こういうこと聞く意地悪な客もいるんだからちゃんと勉強しときなさいよ。」と言われてしまいました。全くその通りだと思えます。

話は変わりますが、この前好き（準ミス愛姫）さんの披露宴に出席した時、突然司会の人から「三春町のPRをお願いします。」なんて言われて、あせりながらもなんとか話をしたんです。それで普段から、自分の生活している町の良さを認識して、ひとに聞かれてもあせらず、スラスラと話ができればいいの心構えも大事だなあなどと考えました。

自分の無知さ加減をさらけだした感もありますが、しっかり楽しんで、勉強させていただきました。皆さん、お疲れ様でした。

平成2年度 事業報告

一関産業まつりへの参加は、私にとって商工会行事の中でも最も大きなものでした。初めての参加ではなかったのですが、前回に比べると自分の立場が全く違うので責任の重さを少し感じました。どんな事をするのかよりも自分に何ができるか、どのくらいみんなの力になれるか最初は不安でした。私にとって何かを売るということは、経験あつての事ではなかったのです、正直いってはじめは何となく恥ずかしい気持ちで声も出なかつたのですが、青年部の方に教えていただいたり、慣れてくると自分でも楽しんで仕事ができるようになりました。私のような微力な役にとつては良い経験になりました。一関市と姉妹都市であるとはいっても、一関市へ行く機会がなく、その人々に出会うこともありませんでした。一関市の方々は、とても親切にして下さいましたし、三春のこともよく知ってらっしゃるようです。一関からお客様が来て下さる時は同じように温かくむかえてあげたいと思いました。私にとって、一関産業まつりにかかわらず商工会行事に参加し、青年部の方を含め、多くの人々に出会えたという事はとても意義のある事だと思っています。この一年間に経験した事や出会いを大切にして自分をもっと大きくできるように努力していきたいと思いま

平成2年度

◎ 4月26日

ミス愛姫コンテスト発表会実施
於 三春椿山荘

◎ 5月3日

三春まつり「愛姫・大名行列」
参加協力

岩崎正幸君・斉藤善之君
高野信広君・本田正弘君
村上瑞夫君・吉田仁一君
吉村 剛君

以上、勇ましき三春武者の方々、
御苦労様でした。

◎ 6月26日

田村郡商工会青年部連絡協議会
ゴルフ大会

於 宇津峰カントリークラブ
全参加者38名中、三春町の精鋭
7名、大いに奮闘、大変お世話
になりました。

◎ 7月9日

第29回商工会親善野球田村郡大会
於 三春町営野球場

| | | | | | | | | | |
|------|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 準決勝戦 | 小野町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 三春町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 決勝戦 | 滝根町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 三春町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 |

栄光への第1歩は、7月9日の
対小野町戦からはじまった。

◎ 8月3日

第29回商工会親善野球県中地区大会
於 玉川村民グラウンド

準決勝戦

| | | | | | | | | | |
|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 石川町 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 三春町 | 1 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | × | 4 |
| 決勝戦 | 三春町 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 7 |
| 安積町 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 |

炎天下の激闘!!見事V2達成。
しかし、2塁打を3連続で打つ
てるのに、文句をつけるベンチ
なんかどこにもないぞ!!

◎ 8月4日~5日

町村合併35周年記念35時間マラ
ソンソフトボール大会
於 三春町営野球場

◎ 8月23日

第24回商工会親善野球福島県大会
於 富岡町営野球場

| | | | | | | | | |
|------|------|---|---|---|---|---|---|----|
| 1回戦 | 三春町 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 5 | 10 |
| 川前町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 準決勝戦 | 西会津町 | 0 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| 三春町 | 2 | 0 | 0 | 1 | 1 | 4 | × | 8 |

輝く赤羽投手のノーヒット・ノー
ラン!!

| | | | | | | | | |
|-------|----------------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 決勝戦 | 三春町 | 0 | 0 | 1 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| 会津高田町 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 惨敗!! | 津軽海峡は波高く、札幌丸山球 場は夢と去りぬ。 | | | | | | | |

◎ 11月3~4日

三春町合併35周年記念「産業ま
つり」参加

◎ 11月9~10日

一関地方産業まつり参加
◎ 11月19日

支部対抗ハレーボール大会

優勝 中町支部
準優勝 荒町支部
スポーツに年齢はない。若者よ、
もっと体をきたえよ!!(中町支
部員の声)

◎ 1月11日

行政懇談会
激論続出!?! いまイチ理解で
きない。

◎ 1月24日

経営講演会
講演テーマ「小売商業における
色の活用」講師 高坂美紀氏
講演後、何日間か「赤い色のパ
ンツがやけに売れた。」との衣料
品屋さんの話。

◎ 2月7日

新年会 於 大藤屋

◎ 2月16~17日

ふれあい列車「あぶくま高原発
オリエントサルーン号によるミ
ステリー・スキーツアー」三春
町は最多31名の出席!!募集協力
ありがとうございました。

◎ 2月18日

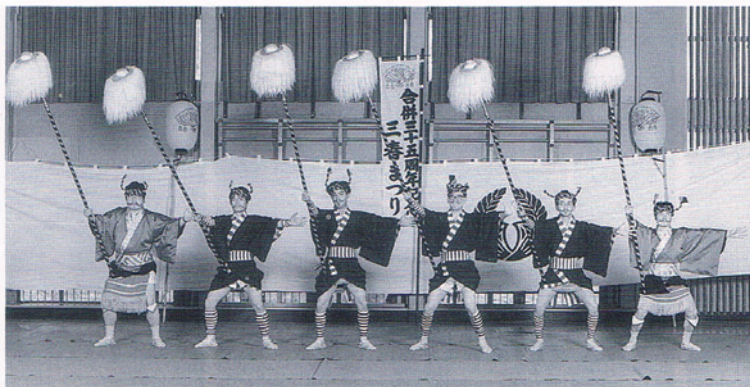
献血実施
次の皆様、協力ありがとうございました。

渡辺正一君・村田信一君
渡辺宏二君・大内春幸君
渡辺則善君・渡辺清平君
佐久間豊君

◎ 2月21日

新春ボウリング大会
於 ダイマツボウル
優勝 渡辺愛子さん(富沢屋畳店)
参加者総数 48名

第29回親善野球大会



愛姫大名行列

商工会野球
県中地区大会



商工会県大会



一関地方産業まつり



経営講演会



ふれあい列車



献血

